

金曜日の会 報告

- 1 期日 4月17日
- 2 場所 倉敷労働会館
- 3 参加者 O CH AK AS YO
- 4 内容

- ・戸田学級・詩『鯉釣』音読映像(6年) (CH)
- ・学級映像『サボテンの花』・教材解釈 (YO)
- ・学級映像『だいじょうぶ だいじょうぶ』(AK)
- ・学級映像・算数(AS)

戸田学級の映像は、学習前後の音読を比較したものでした。学習前の読み自体、極めて高いクオリティなのですが、学習後の読みは全く違った胸に迫るものになっていました。それは、解釈の入ったもので、子どもの表情にも、豊かなイメージがあるように思えました。きっと、子どものイメージが大きく変わる授業があったのだと思います。一人一人の間の取り方や目線からも、表現を感じました。

『サボテンの花』の授業映像から見えた課題は、やはり教師の解釈のなさでした。『ぼくがあるから、あの人があつた。～一つの命が生きるのだ。』特に、なぜまず1文目を言ったのか？また、『ある』と『いる』の使い分けの意味は？ここを丁寧に解釈し、しぼって具体的に問題作りをすることで、言葉に即する授業になっていくのだと思います。話し合いがバラバラになっていった原因がよく分かりました。また、子どもの話し方も、『叫び』から『しなやか』だとか『しっとり』といったものにしていきたいです。月曜日にやり直してみます。

AK 先生の話し方を見ていると、教師の側の明るさや楽しさが感じられました。教師の中にやってみたい解釈があり、子どもの意見を楽しみに聴きながら授業を展開する姿勢からは、学ぶことが多いです。

AS 先生が映像を出されたこと自体、すごいことだと思います。教師の柔らかい語り口が、印象的でした。ただ、単調になりがちなので、変化をつけていく必要があります。でも、これからが楽しみです。YO